

第 135 回 19 世紀の欧米絵画

1 古典主義

- ・古代ギリシアやローマ時代を模範とし、拡張の高い均整のとれた絵画を残した美術様式を古典主義という。

() …フランスの画家。フランス革命に参加し、ジャコバン派の議員としても活動した。後にナポレオンの宮廷画家。

アンゲル

…フランスの画家でダヴィドの弟子。「グランド=オダリスク」。



「テニスコートの誓い」



「サン=ベルナール峠を越えるナポレオン」



「マラーの死」

全てダヴィドの作品である。他に「ナポレオンの戴冠式」や処刑直前のマリー=アントワネットを描いたスケッチなどがある。フランス革命期を代表する画家であり、彼自身もジャコバン派の議員であった。必ずフランス革命史と一緒に勉強すること。



アンゲル作「グランド=オダリスク」
オスマン帝国のハーレムを描いたもの。発表当時は、女性が不可能なポーズをとっているとして、大きな批判を受けた。

2 ロマン主義、自然主義、写実主義など

- ・19世紀には、絵画の世界でもロマン主義や写実主義、自然主義が盛んとなった。
- ・特に自然主義は、農村や自然の風景を題材とした。

() …フランスのロマン主義を代表する画家。「キオス島の虐殺」でギリシアの独立を支援した。1830年に起こった七月革命の市街戦を「
」で描いた。

ドーミエ

…フランスの写実主義版画家。共和主義の立場からルイ=フィリップの風刺画を描いて投獄された。

() …フランスの写実主義画家。1871年の()
に参加した後にスイスへ亡命。「石割り」。

() …フランスの自然主義画家。農民の生活を描いた作品が有名。
「落穂拾い」、「晩鐘」。

() …スペインの画家。後期ロココに属し、ナポレオンの支配に抵抗するスペインの民衆を描いた。「マドリード、1808年、5月3日」。



ドラクロワ作「民衆を導く自由の女神」



クールベ作「石割り」
この「石割り」は完成品ではなく、練習用に書いたものである。本物は第二次世界大戦中で焼失。



ミレー作「落穂拾い」
収穫が終わった後に、残った穂を拾う、貧しい農婦が描かれている。



ゴヤ作「裸のマハ」
ゴヤはスペイン王室の宮廷画家であった。「着衣のマハ」という作品もある。プラド美術館に行くべきである。

3 印象派・その他

- ・19 世紀後半、光と色彩を重視して、対象物から受ける直接的な印象を重視する絵画の流派を（ ）という。
- ・19 世紀末から 20 世紀初めには、花や植物をモチーフにし、時には鉄やガラスなども用いてなめらかな自由曲線を描く（ ）が盛んとなった。

<印象派>

- () …フランスの画家で、印象派の創始者。「草の上の食事」、「エミール=ゾラの肖像」、「マクシミリアンの処刑」。
- () …フランスの印象派を代表する画家。「睡蓮」、「印象・日の出」。
- () …フランスの画家。「ムーラン=ド=ラ=ギャレット」。



マネ作「草上の食事」
それまで裸の女性は、神話や歴史などの絵画にのみ描かれるものであったため、激しい議論を呼び起こした。



モネ作「印象・日の出」
モネは光の画家と呼ばれ、時間や季節とともに移行行く光を追求した。印象派の名は、この「印象・日の出」に由来する。また「日傘を差す女」は、モネ夫人をモデルとしている。



ルノワール作「ムーラン=ド=ラ=ギャレット」
題名は実在のダンスホールの名前。ちなみに描かれているのは全てモデルで、ルノワールの友人であった。

<後期印象派>

- () …フランスの画家。風景や肖像を知的な構成で描写した。立体派（キュビズム）など近代絵画に強い影響を与えた。
- () …フランスの画家。仏領の（ ）で晩年を過ごした。
- () …オランダの画家。強烈な色彩を特徴とする、独自の画風を確立した。「自画像」、「ひまわり」。



セザンヌ作「サント=ヴィクトワール山」
セザンヌは「自然を円柱、球、円錐として捉えなさい」と言い、ピカソなどに影響を与えた。



ゴーガン作「タヒチの女」
ゴーガンとも。ゴッホと共同生活を送ったこともあったが、うまくいかなかった。タヒチは南太平洋の島である。



ゴッホ作「自画像」
数多くの「自画像」や「ひまわり」を描いたが、生前には1枚の絵しか売れなかった。晩年は自らの左耳を切るなど、奇行が目立った。



「ひまわり」

<近代彫刻>

- () …フランスの彫刻家で、近代彫刻の確立者。「地獄の門」、「考える人」。



ロダン作「考える人」

有名な「考える人」は、ダンテの『神曲』の場面を彫刻にした、「地獄の門」の一部を抜き取ったものである。